

北陸学院大学公開講座

レテック
RiDeC セミナー
地域教育開発センター

報告書 2017

連続公開講座 ～いのちの重さと輝き～

生きるに値する世界のために

～ 貧困と生きづらさを巡って～

第一部 基調講演

第二部 対談 雨宮処凛×井上英夫

2017年7月15日（土）

2017年度連続公開講座は「生きるに値する世界のために～貧困と生きづらさを巡って～」をテーマに開催、作家であり活動家の雨宮処凛さんにお越しいただきました。第一部では雨宮さんが直接関わってきた現場の声を中心に、貧困を巡る今日的状況と課題についてお話いただきました。続く第二部では金沢大学名誉教授井上英夫さんを交え、昨今注目されている「いのちのとりで裁判」など、人権を巡る取り組みについて議論が交わされました。



コーディネーター：田中純一（人間総合学部社会学科）

幼小接続をビデオ・トークで考える

第1回 思考力の芽生えと生活科

2017年5月13日（土）

話題提供：福江厚啓（人間総合学部子ども教育学科）・堀川幼稚園の先生たち
コーディネーター：大井佳子・向出圭吾（人間総合学部子ども教育学科）

第2回 幼児の遊びに潜む数学 - 触れる -

2017年10月7日（土）

話題提供：下村岳人（算数・数学教育 島根大学）・舟見ヶ丘保育園の先生たち
コーディネーター：大井佳子・向出圭吾（人間総合学部子ども教育学科）

第3回 幼児の遊びに潜む数学 - 発見 -

2017年11月23日（木・祝）

話題提供：下村岳人（算数・数学教育 島根大学）・認定こども園川上幼稚園の先生たち
コーディネーター：大井佳子・向出圭吾（人間総合学部子ども教育学科）

園内の自由遊びで展開されている、その園の日常的な遊びをビデオ記録していただき、数分間の映像からワイワイガヤガヤ、そこにある子どもたちの学びを30人～40人の参加者で読み取ることを重ねてきました。今年度は、小学校以降の教科学習の内容との連続性に焦点を当てての読み解きに挑戦。保育関係者だけでなく、学校の先生や保護者の参加も得、教師・保育者をめざす学生も交じえての討議です。参加者それぞれが普段いっしょに考えている仲間とは異なるメンバーと共に考えるというREDeCセミナーだからこその時間です。とりわけ保育関係者には遊びに算数を見つけることの新鮮さが大好評でした。



小学校期を考える

第1回 「語ること、書くこと、聞くこと」～「表現」を育む実践の探究 2017年6月17日（土）

講師：吉野裕之（加賀市小学校教諭）
金森俊朗
齊藤英俊（人間総合学部子ども教育学科）
コーディネーター：辻直人（人間総合学部子ども教育学科）

日本の教育現場で長く展開されてきた生活綴方教育と生活教育は、世界に誇れる教育遺産と言えます。これらの教育は、子どもの内側から湧き上がる「表現」、「内なる声」を大切にしていました。この講座では最初に、加賀市の小学校教諭吉野裕之さんが、とても温かい雰囲気の中で、子どもたちは自らの思いや考えを自由に表現し、それが友とつながり、学び合っている場面を紹介してくださいました。また、本学子ども教育学科齊藤英俊は、スクールカウンセラーの立場から、子どもの「内なる声」に耳を傾ける意義について語ってくれました。最後に、金森俊朗・辻直人著『学び合う教室』（角川新書）の内容紹介をし、「表現」することが今後益々教育実践で大切にされる必要があることを確認しました。



社会を読み解く

第1回 心を実験する

2017年6月24日（土）

講師：木島恒一（人間総合学部社会学科）

本講座は、2017年6月24日（土曜日）に行われました。本学PC1室にてパソコンによる心理学実験（印象形成、目撃証言、概念形成、速度見越しの4つ）を講座参加者に体験してもらいました。講座には、高校生1名、一般5名（うち1名は高校生の保護者）、学生13名の参加を得、普段の生活では体験できない「心理学実験」を体験するというものであったので、講座の内容は参加者にとっても分かりやすく、また関心を持っていただくことができました。

第2回 わたしたちの住み良い社会～犯罪・非行を通して社会を考える～

2017年6月24日（土）

講師：竹中祐二（人間総合学部社会学科）

「犯罪・非行」は、なくなった方が良くとすれば、それはなぜ？なくなる方が良くとすれば、それはなぜ？これらの問いに、社会学は古くから向き合ってきました。日常生活からはずいぶんと距離を感じる「犯罪・非行」という重いテーマを入り口に、社会学の「概念」や「理論」を学ぶことで、「絶対的な見方なんて存在しないんだ」という気付きを、参加者のみなさんに伝えることができました。そうして、まだ見知らぬ誰かのことを思い浮かべること、つまり、「わたしたち」の「社会」を考え直すことの大切さと共に、例えば少年法改正といった、今まさに「わたしたち」が直面している課題についても考え直すきっかけを、持って帰っていただくことができましたと思います。

第3回 図書館講座 石川県内図書館の旅

2017年10月21日（土）

講師：若杉亮平（人間総合学部社会学科）

北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部の大学祭である栄光祭の開催中、2017年10月21日に社会学科司書課程教員による講座「図書館講座 石川県内図書館の旅」を実施しました。講座担当者がこの1年程度で石川県内のほぼ全ての公共図書館を巡り、そこで見聞きした経験をもとに図書館の面白さを紹介しました。公共図書館の立地や建築、館内の雰囲気や資料の揃え方、そして利用者の様子などは石川県内に限っても多用多様です。普段、いつも通っている図書館がある方には、それ以外の図書館も利用してみることをお勧めしました。もちろん、あまり図書館を利用されない方は、これを機会に図書館に親しんで頂ければと思います。



防災・減災

第1回 イザ！カエルキャラバン in 北陸学院

2017年7月9日（日）

講師：金沢エコライフクラブ・田中純一（人間総合学部社会学科）

7月9日、防災とおもちゃのリサイクルを兼ねたイベント「イザ！カエルキャラバンin北陸学院」を開催しました。「バケツリレー」「ジャッキアップ」「防災紙芝居」など、参加者は遊びを通して防災の知識や技術を学びました。防災プログラムに参加するともらえるポイントを集めると、会場のおもちゃと交換できる仕組みも子どもたちには魅力だった様子で、終始にぎやかな声がフレンドシップホールに響き渡っていました。



食と暮らしを考える

第1回 調理はサイエンス～夏休みの自由研究はこれでOK～

2017年8月5日（土）

講師：三田陽子・俵万里子（短期大学部食物栄養学科）

私達が普段食べている料理には、実は沢山の科学が関わっています。今回の講座では食品成分変化の不思議を講義や演示実験、実習を通して楽しく学びました。焼きそばの色の変化のデモには大人も子どもも目を見張りました。実習ではマヨネーズ作り体験に子どもたちの列が出来ました。「とにかくお料理が面白かった」「目で見て食べて直接感じながら学ぶことができた」「知らないことばかりで面白かった」「自由研究に使おうと思う」などの感想があり、楽しく学べる講座になったと思います。同時に、小さな子どもには少し難しく、対象年齢を絞った方が良かったのではとのご意見もいただき、今後の講座の充実に活かしていきたいと思っております。

第2回 一度は教わりたい、災害時の食事

2017年10月21日（土）

講師：塩谷さち子・高信雅子（石川県栄養士会）

コーディネーター：三田陽子・俵万里子（短期大学部食物栄養学科）

石川県栄養士会から講師を招いて、災害時の食事を講話と実習で学びました。熱源と鍋と最小限の水があれば主食・主菜・副菜・デザートまで揃う食事が出来る、その秘密はポリ袋を使った真空調理にあります。また袋を使うことで個別の調整もしやすく、離乳食や介護食、アレルギー対応も可能になるとのことでした。手順も簡単で、失敗なく作ることが出来ました。参加者の感想には「簡単に美味しい料理ができて驚いた」「とてもためになる講座。震災の際に生かします」をはじめ、「講座での料理は気軽に日常でも楽しめそうで、いざという時のために普段から練習しやすそうだと感じました」「家で豆料理をつくらないからこれで作りたい」などがあり今後役に立つ有意義な講座となりました。



英語を体験しよう

第1回 Halloween Party 英語でハロウィーンを楽しもう！

2017年10月14日（土）

講師：宮浦国江（人間総合学部子ども教育学科）

クリスタル・ランキート（短期大学部コミュニティ文化学科）

「子ども英語」履修学生

最少催行人数に達しなかったため、中止となりました。



現代を識る

第1回 観光学入門

2017年6月17日（土）

講師：沢田史子（短期大学部コミュニティ文化学科）

観光産業は関連する分野が多岐に亘り、波及効果の裾野が広い産業とされています。本講演では、観光の語源・定義、観光動機、観光産業と関連産業について概説しました。代表的な観光産業である旅行業を取り上げ、その業務や分類とインターネット時代の課題について述べました。さらに、北陸新幹線開業による観光客の増加の影響について紹介しました。様々な影響がある中で、不足している宿泊施設に注目し、現在の状況と今後の課題について述べました。観光に興味のある方々や学生、観光業に携わる方々にご参加いただき、熱心に聞いていただきました。

第2回 SNS自衛術入門

2017年6月24日（土）

講師：池村努（短期大学部コミュニティ文化学科）

今年度コミュニティ文化学科では、「現代を識る」というテーマで2講座を実施しました。報告者は「SNS自衛術入門」（参加者：学生23名、一般3名）というテーマで講座を持ちました。

現代社会では携帯通信端末から離れて生活することが難しくなっています。さらにSNSを利用するケースも増えています。SNSを利用することにより、生活や趣味を豊かにすることが可能となりますが、一方で扱い方を間違えるとプライバシーを晒してしまい、生活の安全を脅かすことにも繋がりがかねません。日常生活が一変してしまうことも生じます。

本講座ではSNSで注意すべき点についてまとめ、安全に楽しく利用する方法を紹介しました。参加者からも多くの質問があり、良い時間を持てたと思います。

冬の連続公開講座 ～この地に生きる⑧～

語り継ぐ土地の記憶

2017年11月23日（木・祝）

～芸術のコラボレーションから生まれるもの～

話し手：奈良井伸子 音楽：北村浩一・マルセロ

保育士として働きながら、わらべうたやお話会、朗読講演など、石川県内を中心に多彩な活躍をされている奈良井伸子さんによる朗読ライブ。今回はブラジルで文学賞を受賞したナカサト・オスカルさんの小説「NIHON-JIN」を朗読。県内で活躍するミュージシャンによるボサノバ演奏をバックに、ブラジルの音楽と文学とが融合した心地よいひとときに参加者全員が包み込まれました。



コーディネーター：田中純一（人間総合学部社会学科）

RED e Cの活動

北陸学院大学スイーツ研究所

スイーツ研究所は、「美味しい」「地産地消」「体にやさしい」をテーマにオリジナルスイーツの商品開発に取り組んでいます。今年は「北陸学院大学よりそいの花プロジェクト」と共同し、復興支援を目的とした「陸前高田のちっちゃな花畑クッキー」を開発。「大学は美味しい！！」フェア（於：新宿高島屋）をはじめ各種イベントで販売し、好評を得ることができました。地元食材を盛り込んだ12種のクッキー開発にも挑戦！食材についての理解が深まりました。また、昨年に引き続き「金時草祭り」に参加。収穫体験や販売を通して、地域住民との交流を深めることができました。さらに「のともーるスマイルプロジェクト」への参加等、活動の幅を広げ、地域活性化にも貢献することができました。



ともいき塾

■よりそいの花プロジェクト

よりそいの花プロジェクトでは岩手県陸前高田市での第27次ボランティア派遣活動を実施しました。27次派遣では、仮設団地での花畑整備補助、語り部の会の開催に加え、震災遺稿周辺の清掃作業を行いました。在学生だけでなく、卒業生の参加もあり、震災当時の状況、これからの活動、ニーズの変化についてを語り継ぐ場面もあり、学生たちは今後どのような活動が必要とされるのかを改めて考えていく機会になりました。



管理栄養士国家試験受験対策講座

今年度13回目となる管理栄養士国家試験受験対策講座は、入門編、応用編の2回に分けて開催されました。入門編は例年通り9月～10月、昼夜の2部に開講され、夜の部は受講者の便宜を諮って学外に会場を設けて開催しました。国家試験は従来3月末に実施されてきましたが、今年度より3月初めの実施となったため、応用編は、例年よりも1か月早めて、12月、1月の開催としました。今回は大雪のため、変更も生じましたが、予定された日程を終えることができ、受講者はそれぞれ熱心に取り組みました。今年も国家試験が近づいていますが、受講者の希望が叶えられるよう、健闘を祈っています。

クリエイショングループ

今年度は6活動を実施しました。

5月20日（土）	三世代手つなぎウォーク（金沢城公園）	参加学生	11名
6月25日（日）	芳斉児童館まつり（中央小学校芳斉分校）	参加学生	8名
9月 3日（日）	福祉のつどい2017金沢（松ヶ枝福祉館）	参加学生	16名
10月 9日（月）	はだしの王国 奥卯辰 2017（奥卯辰山健民公園）	参加学生	2名
10月20日（金）・21日（土）	オレンジリボンキャンペーン（北陸学院大学）	参加学生	14名
11月12日（日）	子育て支援メッセいしかわ2017（産業展示館4号館）	参加学生	20名

以上の活動は毎年依頼されるものも多く、舞台でのエンディングを頼まれることもしばしばあり、このことによりこの活動が少しずつ社会に知られてきているのではと嬉しく思います。多くの人の前で話すという経験、言葉の選び方の学び、臨機応変に対応する難しさと必要性など、学生にとってはこれからの役立つ良い経験になったと思います。

また、今年度のクリエイショングループの活動において印象深かったのは食物栄養学科の学生や、社会学科の学生の意欲的な参加があったことです。彼女たちからも有意義な活動だったと感想をもらいました。クリエイショングループはもともと全学科を対象と考えて発足したものですので、今後も学科の枠を外してたくさんの学生に参加してもらえる活動にしたいと考えています。



金沢市教育プラザ・子育て支援

教育プラザでは、幼児児童教育学科の学生が一年を通して「子育て広場」をフィールドに子育て支援を実践的に学ぶ機会を得ています。また、地域に向けて年1回、本学主催企画を実施しています。今年度は2月に、3歳から未就学児までの親子6組を対象に「3匹のくま」のスープを親子で作り、絵本の世界の中でおいしく食べました。毎回大好評です。次年度も、長い歴史の中で培ってきた本学の学問分野に関する研究とその成果を地域に向けて発信していきたいと考えています。

あそび場J〇J〇

月1回、たっぷり3時間を子どもたちはそれぞれに遊びをつくり出して過ごします。ラウンジにオモチャを用意して設定される遊びだけでなく、子どもたちはラウンジの窓から見渡せるキャンパスの丘や林ヘグランドへと出かけ、竹の子をみつけ、虫を追い、水たまりを巡り……。雨でも外遊びの強者たちも少なくなく、学生スタッフを中心とするスタッフもびしょ濡れになって遊び込みます。保育者・教師・心理職を目指す学生にとっては、園や地域で消えつつある子ども本来の遊びに触れる貴重な体験です。

MAGONOTE塾

MAGONOTE塾は、大人と子どもの関わり方のヒントを映像からみつける不定期開催の勉強会で「必要な時にかゆいところに手が届く、そんな勉強会」というのが命名の由来です。

1年以上お休みとなっていました。ある園から「一緒に考えてほしい園児がいます」とリクエストいただき、園外からの参加も可ということで、出張MAGONOTE塾として再開しました。11月の土曜日の2時間半、園の先生方とお母さま、園外参加者8名の15人で、5分程度の映像から考えました。「今、先生は何て言いました?」「今、なぜ移動しました?」・・・自分のことなのにわからない(笑)。みんなで何度もビデオを見なおし、子どもとのコミュニケーションの不思議に触れました。さあ、明日からもっと丁寧に関わろう!と参加者が思う勉強会です。

その他の地域貢献活動

平成29年度高齢消費者被害防止寸劇出前講座事業(石川県)

人間総合学部社会学科 真砂ゼミ、松下ゼミ

石川県の「平成29年度高齢消費者被害防止寸劇出前講座事業」に本学社会学科の真砂ゼミ、松下ゼミが採択されました。

テーマ 孫を語るオレオレ詐欺

【学外公演】

日時 平成29年9月17日(日) 11:00~12:00
会場 輪島市 本郷公民館
対象 老人会会員(80歳以上) および来賓約80名

日時 平成29年10月28日(土) 11:00~12:00
会場 志賀町 地域休養施設 安らぎ荘
対象 施設利用者(70歳前後) 約40名

日時 平成29年11月25日(土) 13:30~14:30
会場 能美市 和気公民館
対象 地域住民(80歳前後) 約30名

【学内公演】

日時 平成29年10月21日(土) 11:00~12:00
会場 北陸学院大学
対象 学園祭の来訪者約30名



REDeC 講座	一般向け	16講座		参加者人数	560名
出張講座	一般向け	27会場	33回	参加者人数	865名
	高校生向け	8会場	12回	参加者人数	425名

2016年度北陸学院大学公開講座およびREDeCセミナーへ、多くのご参加をいただき誠にありがとうございました。2017年度も皆様に喜んでいただける講座を多数ご用意してお待ちしております。

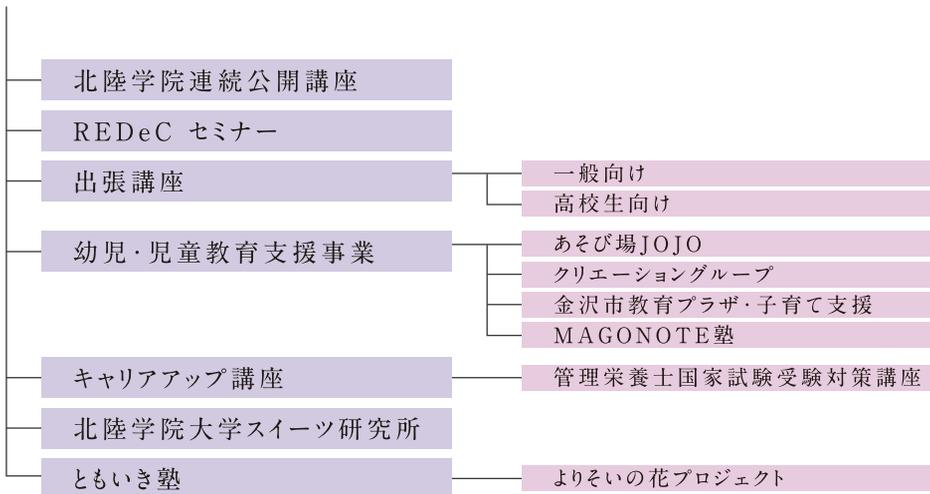


地域教育開発センター

(Regional Education Development Center: REDeC) とは、

北陸学院大学が行っている学問分野(幼児児童教育、英語及び英語教育、心理学、社会学、食生活その他の学問分野)に関する研究の成果をもって地域社会に貢献することを目的とする組織です。

REDeCの活動



学部・学科構成

北陸学院大学 人間総合学部

- 子ども教育学科
- 幼児児童教育学科
- 社会学科

北陸学院大学短期大学部

- 食物栄養学科
- コミュニティ文化学科

※「幼児児童教育学科」は、2017年4月より「子ども教育学科」に名称変更しました。

※全学科男女共学



北陸学院大学
地域教育開発センター

〒920-1396 石川県金沢市三小牛町イ11番地
TEL: 076-280-3850 FAX: 076-280-3851
Mail: redec@hokurikugakuin.ac.jp